



只今本堂回廊及び欄干、境内は敷き石による通路整備工事中で、お盆までに完成する予定です。ご迷惑をおかけします。



Soto-Zen Jyousenji

浄泉寺報

第14号

檀信徒各位におかれましては、恙無くお過ごしのことと拝察、お慶び申し上げます。

また、日頃より浄泉寺に格別のご尽力を賜りますこと重ねて御礼申し上げます。

ところで国内の経済情勢は、緩やかに回復しつつあると言われますが、私が感じるところでは全く実感できません。特に富の配分では世界的にも理想的な国であった日本はどうしたのでしょう。所得やそれに伴う生活の格差が拡大しているとの報道を耳にすることも多くなりました。加えて地震や火山の噴火なども頻発しておりますが、安心と安全で、心穏やかな生活を送り続けたいものです。

さて本年は、昨年皆様にご協力を頂きました大本山總持寺二祖禪師様の六百五十回の大遠忌の年でございまして、次ページで参拝旅行のご案内をさせていただきます。またとない機会でございますので多くの檀信徒の皆様のご参加をお願い申し上げます。

また、本年度は副住職であります義道が、秋に神奈川県逗子

市の平野家三女美沙さんと結婚式をいたします。更に年が明け翌一月十五日には先住の五十回忌の法要を予定しておりますことから、若干境内等の整備をいたしております。現在も写真の通り工事中でご参拝の皆様には、大変ご迷惑をおかけしておりますが、お盆までには完成させたいと考えておりますのでご寛容のほどよろしくお願いいたします。

なお、私事ですがこの度、千葉県第三教区(佐倉市・旧成田市・四街道市・富里市・酒々井町・栄町の区域の二十四ヶ寺)の教区長を仰せつかりまして、本年五月から四年間努めさせていただきますことになりました。したがって、檀信徒の皆様には教区主催の行事等に、旧倍のご協力をお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

次に恒例の万灯会ですが、今年も八月十五日の送り盆の夜に開催の予定です。本年唯一のイベントですので、大勢のご参加をお願いいたします。

住職 合掌

当面の行事等

8月 9日(日) 新盆棚経
8月 13日～15日 棚経
8月 15日 万燈供養(演奏会)
午後6時～午後11時頃まで
(イベント午後7時から8時まで)

8月17日 施食会 午前9時から
9月20日～26日 秋彼岸会
10月24日 副住職結婚式
11月12日 大本山總持寺参拝旅行

はたらきをもっているのです。

「おまえは三日後に必ず死ぬ」

と餓鬼から言われた阿難尊者も、その言葉を信じたから恐ろしくなり、お釈迦様に相談したわけです。信じることは、ある場合には恐れとなり、またある場合には安心になります。

お釈迦様が教えられたダラニは、人の心の恐れや苦悩を取り除く力をもっているのです。その力により、一切の餓鬼は心が満たされ、飢えから解き放たれたのでしよう。

それが無量の飲食供養を意味するのではないか、と思います。

本来施餓鬼は、供養を受けられない無縁の精霊に供養するものでしたが、近年では新盆の精霊が餓鬼道に堕ちて苦しむことのないように、また堕ちていればそれを救うために新盆の家を対象に行われるようになり、これが主流となっております。

これを新盆施餓鬼などと呼んで本来の施餓鬼と区分しているようです。嘗ては、浄泉寺でも新盆の方だけでなく多くの檀信徒が参加して行われておりました。

お盆の迎えかた

お盆は、一年に一度、八月に、その家のご先祖をお迎えして十分な供養をする時です。地方により、またその家の習慣により、その迎え方は異なりますが、その一例を紹介します。

八月十三日の夕方、家の門口でオガラ（皮をはいだ麻の茎）を焚いて精霊（祖霊）を迎える風習や、お墓参りをし、墓前で火を焚いて先祖の霊を迎える習慣があります。これらを「迎え火」といいます。

十四日、精霊はその家に留まるとされ、仏壇や精霊棚、また墓前に灯明や灯籠をともしのは、万灯の一つとして精霊に供養する意味があります。

十五日の夕べ（または翌早朝）ご先祖様はその家を去るといわれておるところから「仏送り」ともいい、「送り火」を焚き、お供えをし、灯籠を流したり、水辺の無縁の霊に施しをする習慣があります。

しかし昨今では、河水を汚すのを避けるため、供物を河に流さず適宜処分するようです。

浄泉寺大施食会と 棚経のお知らせ

施食会

八月十七日（月）
午前九時から

当寺本堂でお勤めします。施食会は、もとは施餓鬼といっておりますが、現在曹洞宗では、人権的見地から「施食会」と呼ぶようになっております。近年は新盆を迎える方の参加が大半ですが、この施食会は、縁のある無しを問わず、広く諸精霊に飲食を施す法会です。他のためにする供養は、自分自身に積む善徳となります。

施食会での、ご先祖様の卒塔婆供養をお勧めいたします。供養料は、一本三千円です。

棚経

八月十三日（木）

午前 伊篠・飯仲地区
午後 中央台・東酒々

井・その他酒々
井・佐倉地区

八月十四日（金）

午前 並木町・飯田町
成田ニュータウン地区

午後 富里地区

八月十五日（土）

午前 その他地区

※ 不在の方は、必ずご連絡をお願いいたします。原則として日程の変更は、お受けできません。この日程で不都合の方につきましては、昨年度より八月十三日から十五日までの毎日午後五時より当寺本堂にて、合同でご供養いたします。午後四三十分までに、お越しの上お申し込みください。

・供養料 三千円以上
・卒塔婆つき供養料 五千円以上

※ 卒塔婆つき供養の場合は、当日申し込みはできません。

◎ 新盆について

今年新盆を迎えるのは、

平成二十六年七月より

平成二十七年六月までに逝去された方です。

（お盆までに四十九日忌を終えられた霊位です。）

◎ 新盆棚経

八月九日（日）

※ 対象となるご家庭には、別途詳しくご案内申し上げます。

御霊おくり 万燈会

今年の万燈会は、歌手の松シヨウ氏をお招きし、「松シヨウ 美空ひばりをうたう」と題して昭和を代表する歌手 美空ひばりの懐かしい曲を聴かせていただきます。

境内や墓所に灯る多くの蠟燭の明かりも幻想的で一見に価値するものです。

日時 平成27年8月15日（土）

受付 午後7時から8時まで
午後6時30分から

場所 浄泉寺 本堂内
イス席 約80席

入場 無料

演目 「みだれ髪」「リンゴ追分」「港町十三番地」

「悲しき口笛」など

※ 予約は、不要ですが、イス席をご希望の方は、事前にお申込ください。本堂に入りきれない場合は入場制限があります。





篤志のご披露

■ 本堂中央香炉

奉納者 成田市飯田町

飯嶋 國扶 様

昨年五月に長寿成田一でありましたが満百八歳でご逝去されたお母様の菩提を弔うため成田市飯田町在住の檀家総代飯嶋國扶様から浄泉寺本堂前机に置かれます大香炉が奉納されました。

今までの香炉は大法要などでは若干小さく使いづらいところがありました。これからは施食会等で大いに活用させていただきます。

大変有難うございました。



墓地使用者の皆様へ

浄泉寺墓苑も、各家の墓所が年々増えてまいりました。浄泉寺でも利用者の皆様が清らかな気持ちで、ご先祖様等へのお参りができますよう清掃等に心掛けております。

墓地使用者の方々には、度々この浄泉寺報でお願いいたしておりますが、カンやビン類等もお供え後、お持ち帰りいただけますようお願いいたします。またその他、より一層の墓苑の環境美化にご協力を重ねてお願い申し上げます。

中でも、水道周辺のネットフェンスにお掃除用の雑巾等が下げられております。大変申し訳ありませんが、決して美しい景色とは申せませんので、雑巾等のお掃除用具はその都度お持ち帰りいただきたいと思っております。

是非ご理解とご協力をお願いいたします。なお、勝手ながら目に余りました時には、当山の方で処分させていただきますので、よろしく願います。

住職 合掌

仏教豆知識

供養の意味

「供養」の元の意味は、へ敬いの心をもって、ねんごろにもてなす」ということです。もともと、神々や祖先の霊に供物を捧げることが意味します。サンスクリット語のプージャを漢訳した言葉です。

仏教では、仏・法・僧の三宝と亡き人のために、香華・灯明・飲食・茶湯などの供物をそなえて、敬いの気持ちを形にあらわすことです。僧に読経してもら

うこと、家庭で仏前にお経を上げることも供養で、これを「法供養」といいます。法事の時、参列した親族や、僧侶に御齋を出すこと、無縁の精霊に施しをするのも供養です。

そして皆さんが故人のために法事をするのは、実は仏・法・僧の三宝のために法事を営むことなのです。仏様のために法事を営むことは、その人に、より強く三宝への崇敬の念と、生きとし生けるもの（衆生といいます）への慈しみの心をおこさせ

ます。

敬いと慈しみの心を持って供養することは、仏様と亡き人々の霊に大変喜んでもらえることであり、その功德は故人の霊位に及んで、仏果へ進む力強い励ましとなるのです。

回向の意味

亡き人の冥福を祈ることを、追善回向、またつづめて「回向する」といいます。回向は廻向とも書きます。

「回向」は「回らし向わす」とよみます。何をめぐらし、むかわせるかというと、追善法要においては、仏前にお供えし、僧侶を招いて読経供養して、その功德を霊位の方へめぐらし、むかわせることです。それによって、自他ともに仏の境地（仏果菩提）を得るための助けとするのです。

回向は自分のためになる

亡き人のためにすることは自分のためにすることでもあります。なぜなら親しい人の菩提を弔い、回向することは、その行いを通じて、生命の永遠性（生

き通しのいのち）や、遠い祖先から自分に繋がる縁の不思議さに、深く思いを致すこととなります。それはとても大切なことであり、結局は自分の為になるのです。たとえば、池に石を投げると、波紋は遠くまで広がりますが、そのように遠くに及ぶのが回向です。また波は岸べに行くと、こちらに返ってきます。このように利益は自分に返ってくるのです。

やすらぎは

ご先祖の供養から

一周忌	平成二十六年
三回忌	平成二十五年
七回忌	平成二十一年
十三回忌	平成十五年
十七回忌	平成十一年
二十三回忌	平成五年
二十五回忌	平成三年
二十七回忌	平成元年
三十三回忌	昭和五十八年

